

★★★-----

潮来保健所感染症情報メール【令和8年3～5月号】

保健指導課 E-mail: itaho05@pref.ibaraki.lg.jp

-----★★★



◆◇-----

感染症発生動向

-----◇◆

<全数把握対象疾患(2026 年 3/2～3/29(10 週～13 週))>

【潮来保健所管内】

5類	梅毒1件、百日咳1件
----	------------

【茨城県内】

2類	結核 19 件
3類	腸管出血性大腸菌感染症3件、細菌性赤痢2件
4類	レジオネラ症2件、A 型肝炎2件、E 型肝炎3件
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)2件、侵襲性髄膜炎菌感染症2件、侵襲性肺炎球菌感染症4件、水痘(入院例)4件、麻しん1件、梅毒 19 件、百日咳5件

<全数把握対象疾患(2026 年 3/30～2026 年 5/3(14 週～18 週))>

【潮来保健所管内】

なし	
----	--

【茨城県内】

2類	結核 44 件
3類	腸管出血性大腸菌感染症 4 件
4類	E型肝炎 2 件、A型肝炎 1 件、レジオネラ症 6 件
5類	アメーバ赤痢 2 件、ウイルス性肝炎 1 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1 件、急性脳炎 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)2 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 6 件、水痘(入院例)2 件、梅毒 21 件、百日咳 18 件、麻しん 1 件

<全数把握対象疾患(2026 年 5/4～5/31(19 週～22 週))>

【潮来保健所管内】

2類	結核 1件
----	-------

【茨城県内】

2類	結核 19 件
3類	腸管出血性大腸菌感染症 6 件
4類	E型肝炎 1 件、レジオネラ症 6 件、つつが虫病 1 件、日本紅斑熱 1 件
5類	アメーバ赤痢 2 件、急性脳炎 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)4 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件、侵襲性肺

	炎球菌感染症 7 件、水痘(入院例)1 件、多剤耐性緑膿菌感染症 1 件、梅毒 7 件、百日咳 9 件、麻しん 3 件
--	---

<定点把握疾患報告状況(2026 年3/2～2026 年5/31(10 週～22 週))>

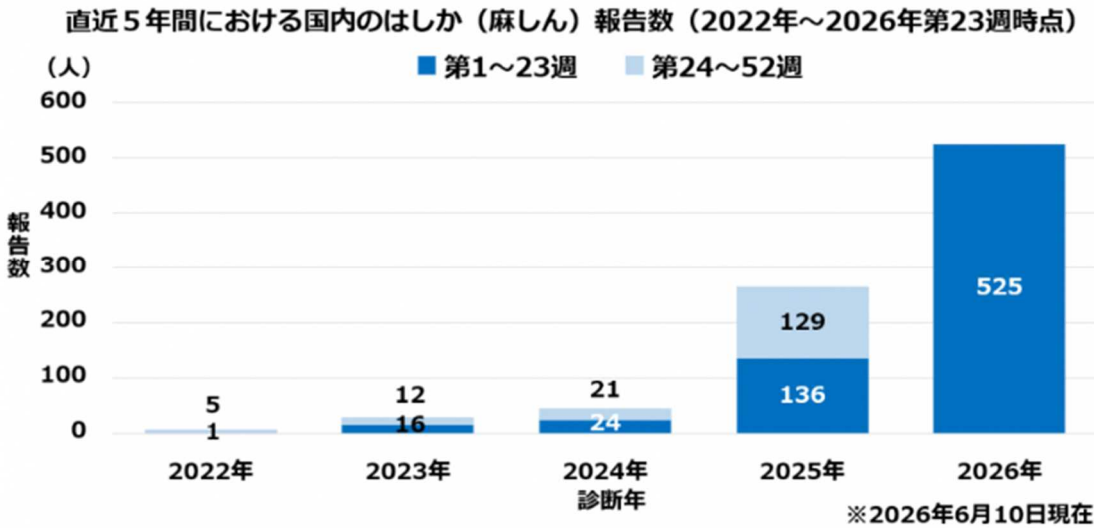
◎水痘

2026 年第 12 週(3/16～3/22)と 19 週(5/4～5/10)に管内では注意報レベルの基準値 1.0 を超えました。20 週以降は減少傾向にありますが、引き続き注意が必要な状況です。

<はしかの発生状況>

直近 10 年間(2016 年～2025 年)の国内におけるはしかの報告数は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、2019 年の 744 例をピークに減少傾向にありましたが、2023 年以降、再び増加に転じています。

2026 年第 23 週までの国内における報告数は 525 例と 2025 年同時期(136 例)の 3.9 倍となっています(2026 年 6 月 10 日時点)。海外からの輸入例が引き続き報告されており、それを契機とした国内感染例もみられています。また、国内では、学校や施設等、多くの人が集まる場所での感染事例に関する情報も見受けられています。



県内では、全国の傾向と同様に近年増加傾向にあり、2025 年の年間報告数は 22 例と、直近 10 年間で最多となりました。2026 年はこれまでに 7 例の報告がありました。国内外の流行状況を踏まえると、引き続き注意が必要な状況であります。

診断年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
報告数	1	1	3	17	0	0	0	1	0	22	7※

※2026年6月16日時点の速報値

<マダニ媒介感染症(重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・日本紅斑熱)が確認されています>

2026 年第 24 週に、茨城県内で重症熱性血小板減少症候群(SFTS)及び日本紅斑熱がそれぞれ 1 例確認されました。SFTS は 2025 年 8 月に県内で初めて患者が確認されて以降、県内 2 例目の報告となります(2025 年に県内在住者の SFTS 患者が別に 1 例確認されていますが、他県からの報告であったため、本県の報告数には含まれていません)。一方、日本紅斑熱は 2019 年に県内で初めて患者が確認されて以降、3～11 月にかけて報告がみられています。これまでの報告例をみると、SFTS 及び日本紅斑熱はともに 60 代以上の報告が多く、男性に多い傾向がみられました。日本紅斑熱では 80 代が約半数を占めています。

マダニは春から秋にかけて活動が活発になります。野外活動時には長袖・長ズボンの着用や虫よけ剤の使用など、マダニに刺されない対策を心がけましょう。

※参考

詳細については、茨城県 Hp の「ダニ媒介感染症に注意しましょう」をご覧ください。

https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/tick-borne_disease.html



出典：茨城県感染症情報センター

◆◇関係リンク◇◆

<茨城県感染症情報センター>

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

◆◇問い合わせ先◇◆

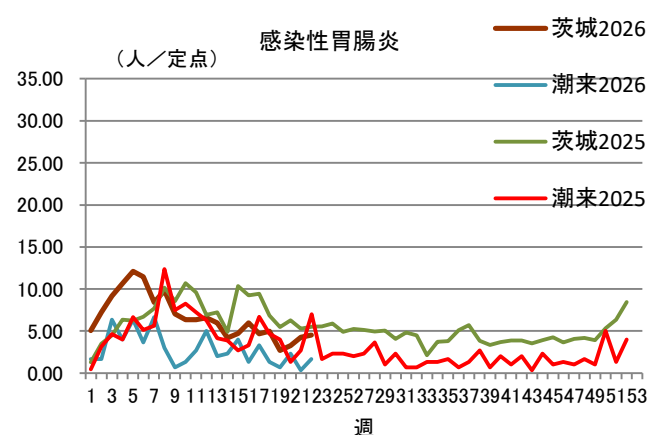
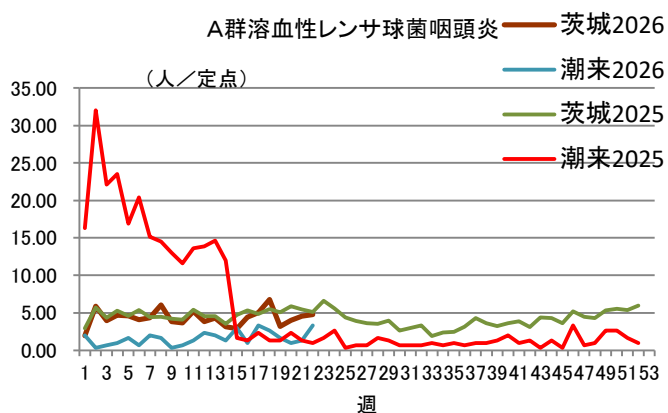
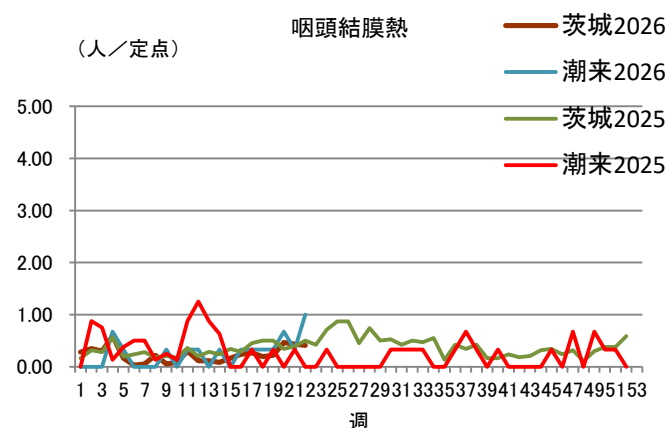
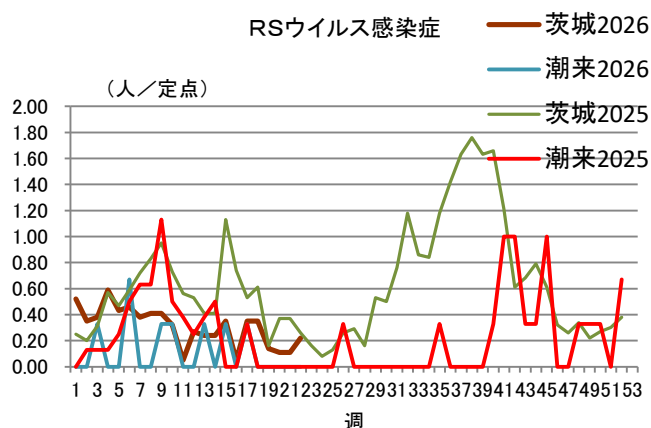
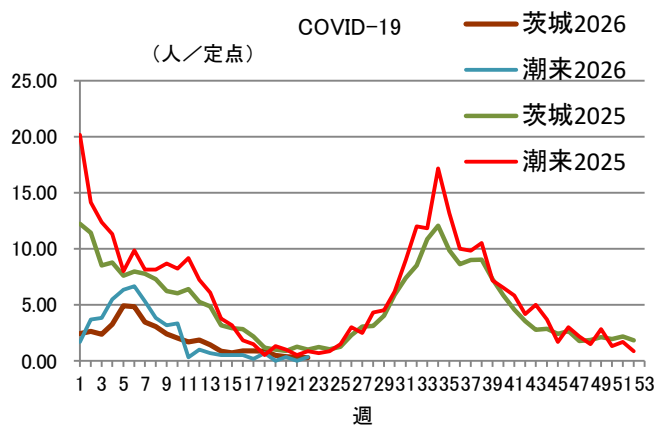
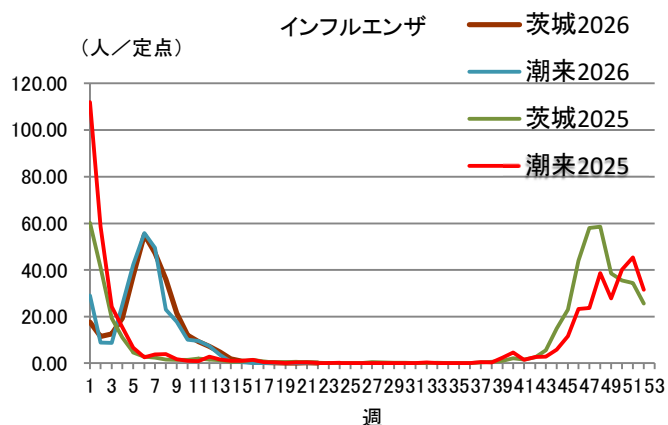
茨城県潮来保健所 保健指導課

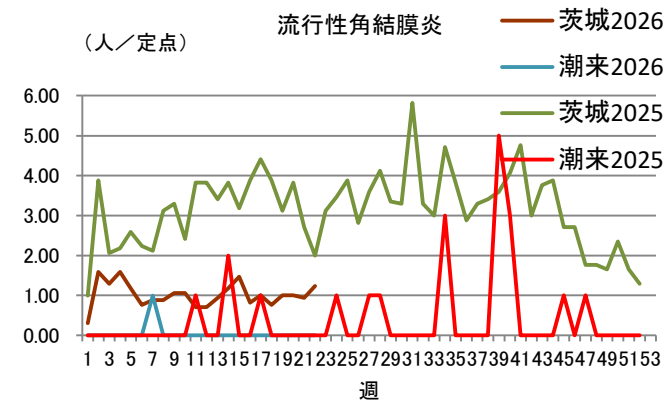
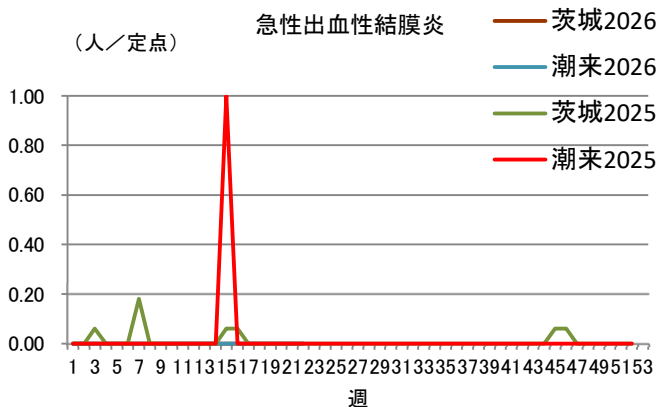
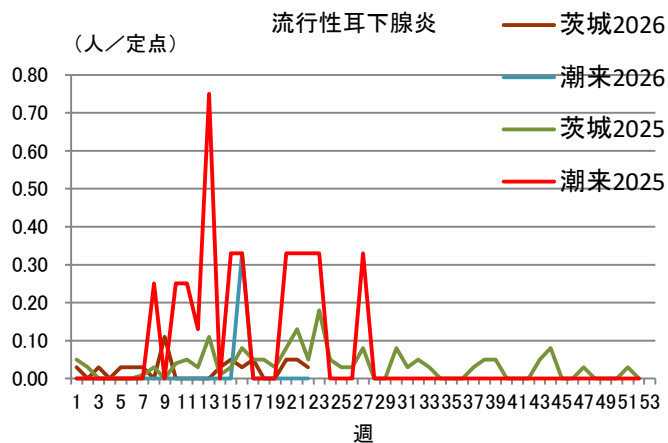
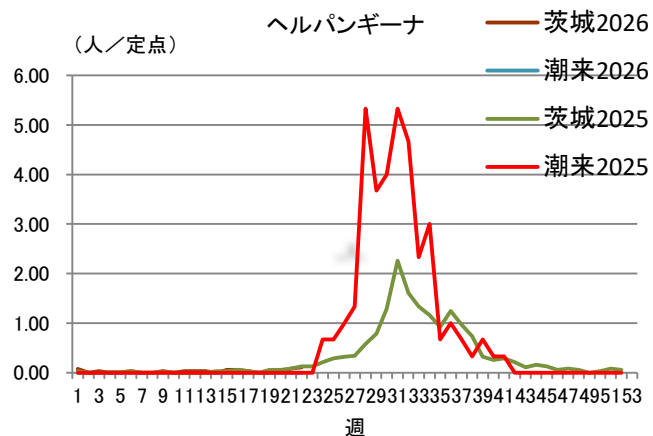
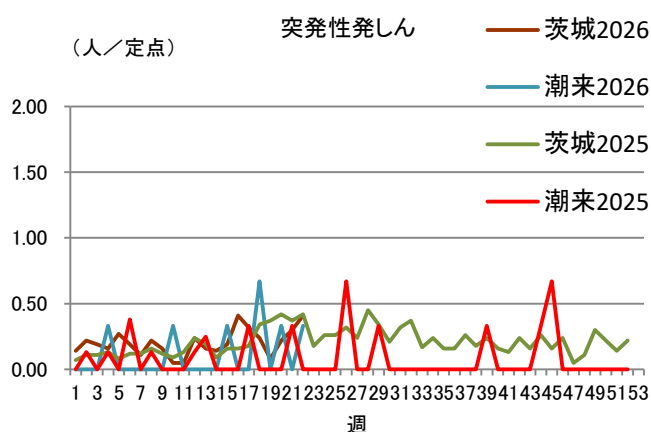
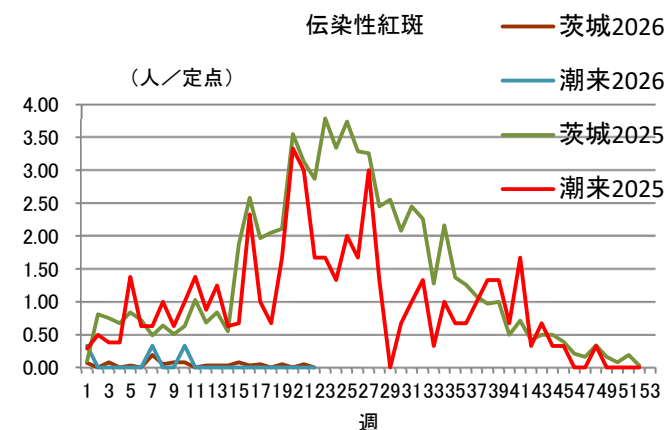
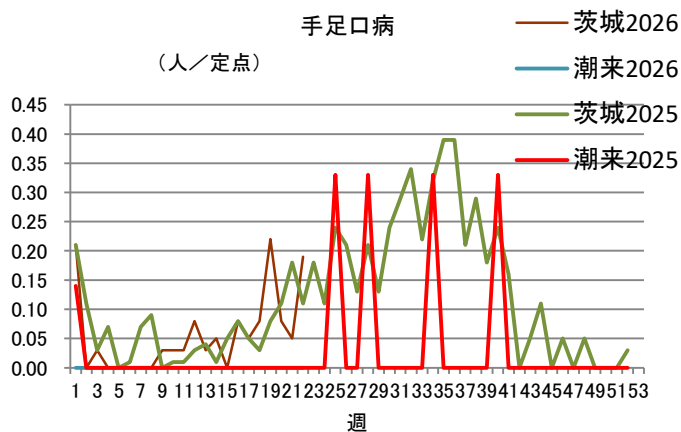
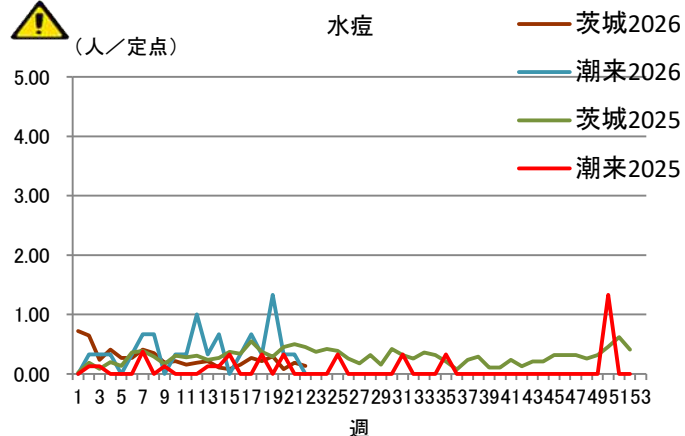
TEL:0299-66-2174

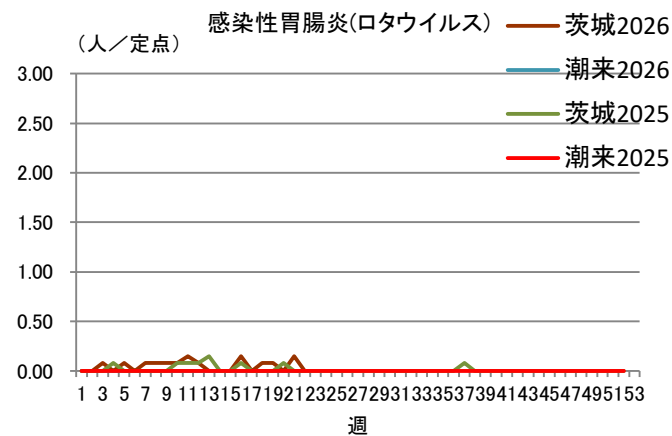
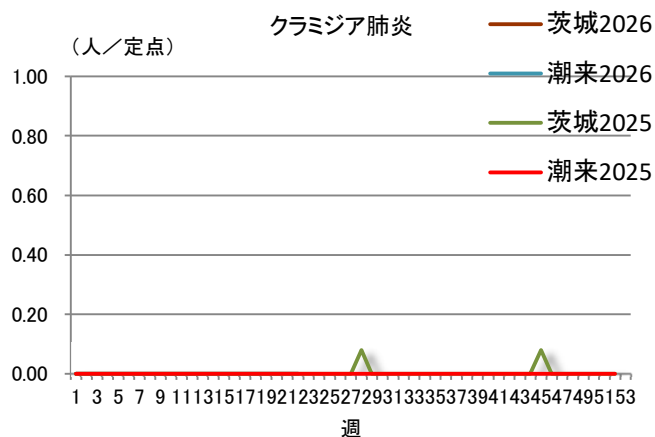
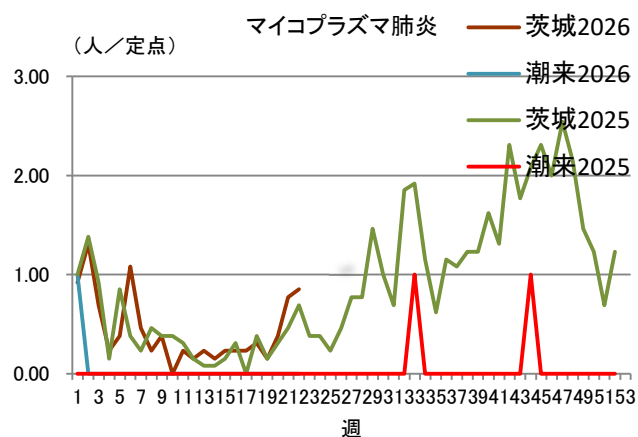
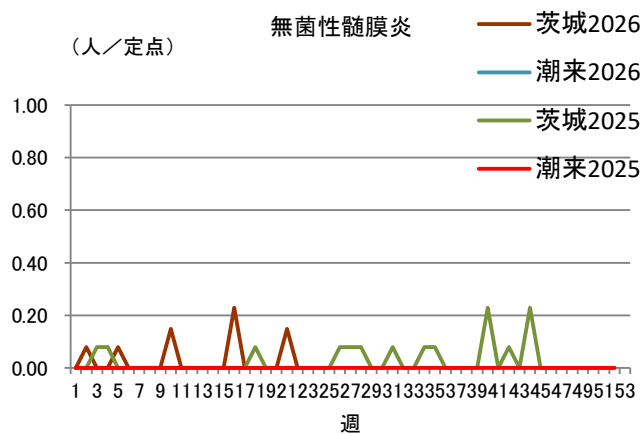
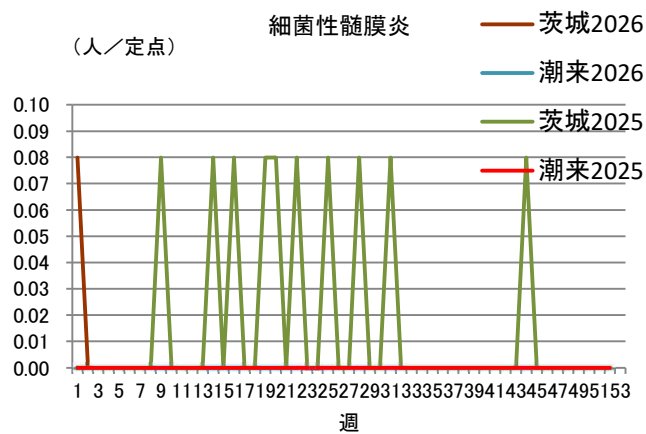
Mail:itaho05@pref.ibaraki.lg.jp

定点把握対象疾患報告数【週別発生状況】2025年・2026年

※急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランス開始に伴い定点医療機関の見直しを実施したため、2025年第1～14週と2025年第15週以降では、定点医療機関数が異なります。







性感染症報告数【月別発生状況】2025年・2026年

